



田舎原出

種彦作
園貞画

三十編下

田舎草子

種彦作

巻二十下

下丹

鶴彦

好



田舎草子

巻二十下
下丹
鶴彦
好

田舎源氏第廿九編序

小倉山房決定家卿の日記と云るる善悪圖傳を悪玉踊りの書の事
 と思へるあつと云るるせの早點頭又よの草紙を或人讀て源氏物語の名
 おも似ぞ義經も弁慶も見えぬいふと難ト云る座奥さう最取をりし
 答てつら病の林示厭ふ鞍馬山お登るといひ實僧正お劍術と云ふ
 五條あつら夕顔の病でての千人斬龜井片岡伊勢の齋院海尊
 ろる常陸宮石橋山の伏木々々大君が外あ雀が飛いも勝月夜の
 扇の的を桂樹が小弓で射させ山名の討まが鴨越を坂落一の
 須戸の巻彼浦せの沖核の日浪風あつる光氏が船の危きそのころへ
 抑これいと知盛の幽霊があられて悪源太の亡魂がある雷とわたりて
 爲桂川の鶉飼の物名名劍と啞の信空蟬の其盤

源氏十編

るはて敵とふせき。遠坂の関の日に。富屋が留るといふ。旗色の
紅白源氏平家の事まで終りて入る。初めを更心の
つらり。備前の編の鈍色の袖をかへて入日と招く。雲をとりて
朝顔も。宗盛の事いふ。五郎の舞。静も出され。八艘の浮舟
何うへうらなむと思ひ。田貫が切腹。いふ。式部の正本。いふ。あつた
例の我侘。さうさう琵琶でうらひさる。伏見常盤をすのめり。あつた。彼
雅問を防がら。丁度所も堀川夜討。女似氣。何と。兵慶懐
の相狭子。あつた。道具のありのやせんと。拍子よか。つて書つた。いふ。光
源氏と源とが混雑。て。予。いふ。も。分ら。見。あ。人。の。後。いふ。夢。の。浮。橋。
と。い。え。と。未。と。い。へ。い。か。つ。つ。る。な。れ。ど。ま。ご。二。十。帖。稿。を。脱。ま。

柳亭種彦

夫良西の家奴作。先。の。我。の。多。少。は。任。せ。長。め。の。棟。と。梁。に。し
大。あ。の。柱。と。枕。と。短。の。拵。と。椿。と。細。の。縁。と。楠。と。其。後
あ。い。だ。い。の。母。と。甘。草。榊。妻。を。い。ふ。乃。至。實。子。の。娘。也。後。是。を。家。と
い。ふ。が。如。く。作。文。の。躰。又。是。如。く。我。文。の。多。少。は。任。せ。と。い。ふ。い。ふ。が。ら
文。の。あ。つ。た。學。と。い。ふ。竹。も。さ。う。請。合。權。傳。の。源。氏。の。間。五。十。四。帖。の
廣。應。を。ぬ。柱。印。の。い。う。は。え。い。ふ。い。ふ。書。る。鍔。釘。の。折。を。書。て。お。つ。け
大。工。の。子。際。も。ぬ。大。帳。場。と。い。ふ。い。ふ。文。廻。し。語。格。の。曲。尺。を。原。來。知。ら
ぬ。他。の。下。墨。下。振。ぬ。か。つ。つ。を。曲。る。う。ら。い。と。先。二。十。帖。を。建。て。い。ふ。これ。と
實。の。形。代。源。氏。の。も。ぬ。似。も。は。ら。ぬ。画。様。を。う。ら。い。大。造。り。て。壁。言。の。麻。木。の
宮。殿。を。管。理。し。蜀。黍。か。ら。ぬ。様。圖。を。組。あ。げ。る。い。ふ。異。な。ら。ぬ。漸。近。に。て
卷。の。名。の。鈴。虫。螢。の。い。ふ。ぬ。せ。ん。と。不。用。の。子。も。る。と。今。更。悔。ぬ。

天保十年己亥正月

柳亭種彦

いほくみ身のうねりこと
あふ海も
より五條も
中衣を

あまのつらみわ
赤松高直
鷹音



あまのつらみわ

あまのつらみわ

あまのつらみわ

あまのつらみわ

あまのつらみわ
夕霧丸改名

あまのつらみわ
足利雲井之丞氏仲
冠者の君
稱を

ついであつて山名のむすめと
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と

ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と

ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と

ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と

ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と

ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と
 ついであつて山名の子と
 りつとあつて山名の子と





原氏二十編

九

歌川貞画
柳亭種彦作
る
口
三十二編上



三十二編上

歌川國貞画
柳亭種彦作

精製御白粉 御白髪髮漆 美艷仙女香 黒油美玄香

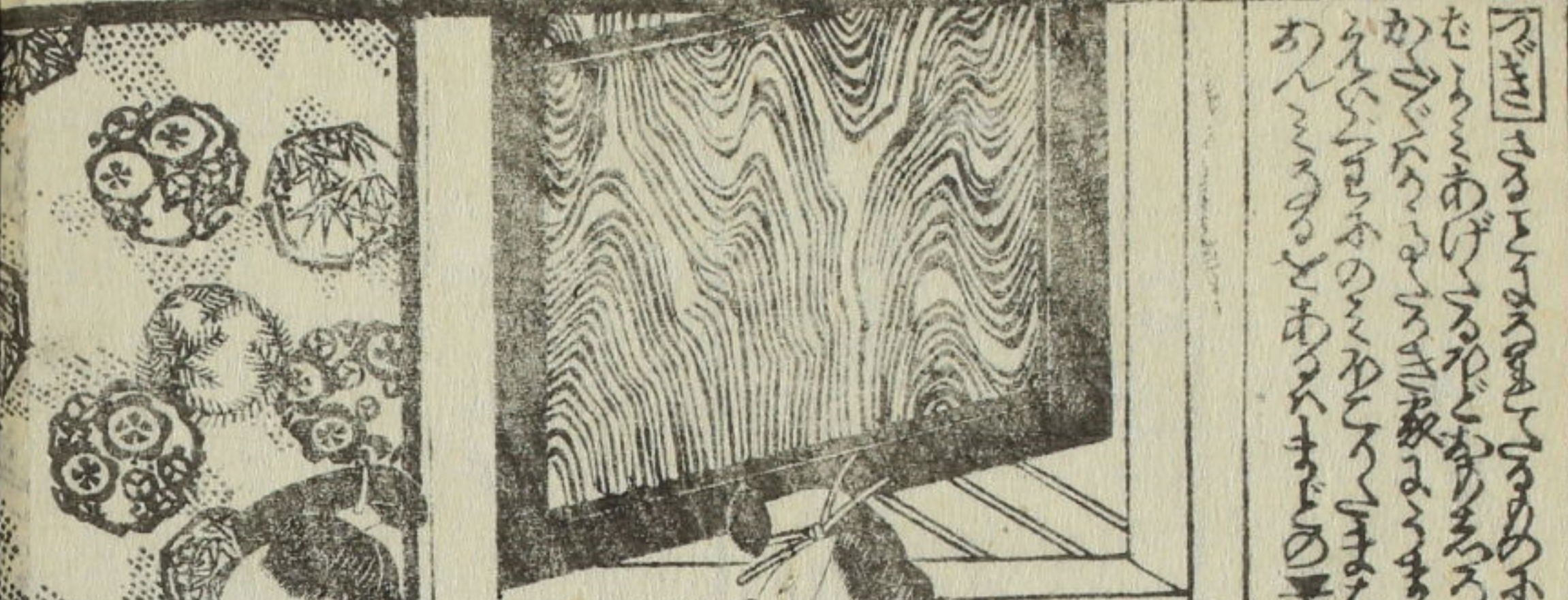
日本諸年あまの御用をくかすせと
ありがまのしく 製衣方念入ひなるや
清りとめのぞ

母希ひ
南條馬町平目
坂本氏

この花のゆ
こころさやゆ
ひやくとて
かきつるがわあやの
こそでまかしの
うちらけすをまゐるはと
くみどくあつてさうかひとると
光氏のあるうらぬりののをもの
きりつとつきのけきりかき
ひやくとつきのけきりかき
ひやくとつきのけきりかき

清書 金川

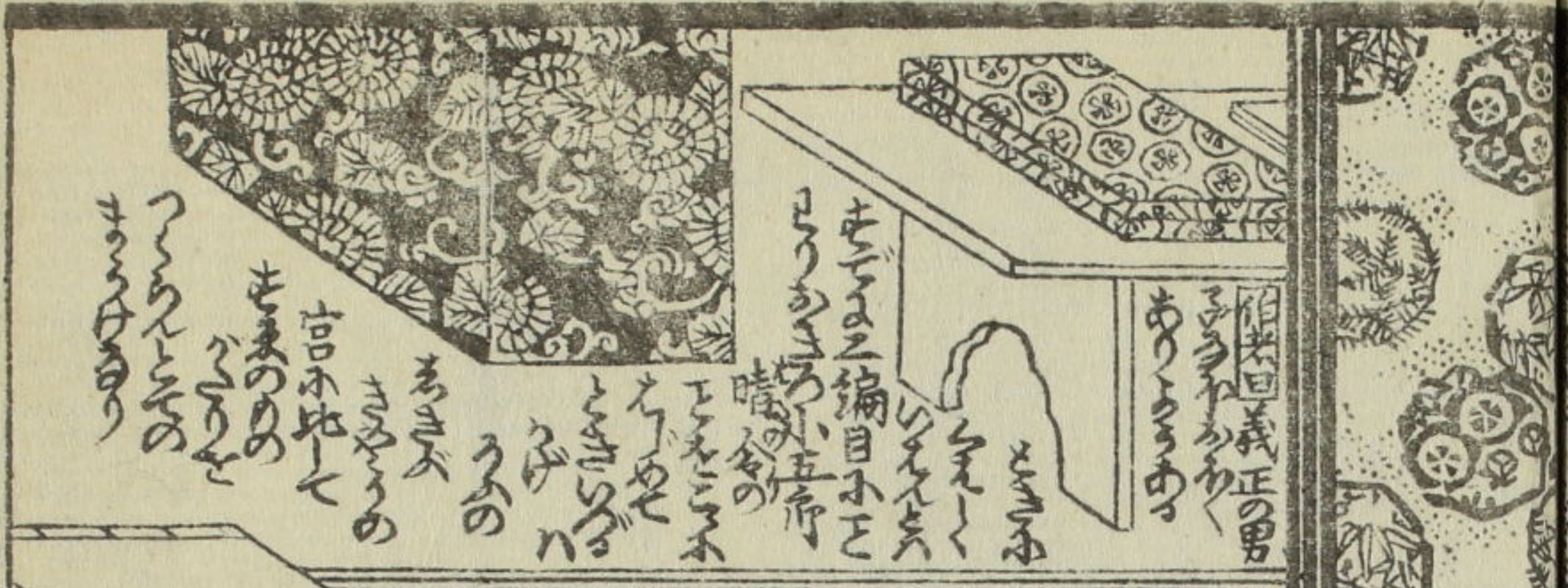
万景はるるをまをさるるのめあつたれ
むらあげらるやどかありあう
わらうらうらうらあまはまは
えいごまのそわとらうまは
わんまるとあままのま



中かまをまらうらうらあまは
いままらうらうらあまは
わらうらうらあまは
えいごまのそわとらうまは
わんまるとあままのま



かろちあまは
あまは
あまは
あまは
あまは



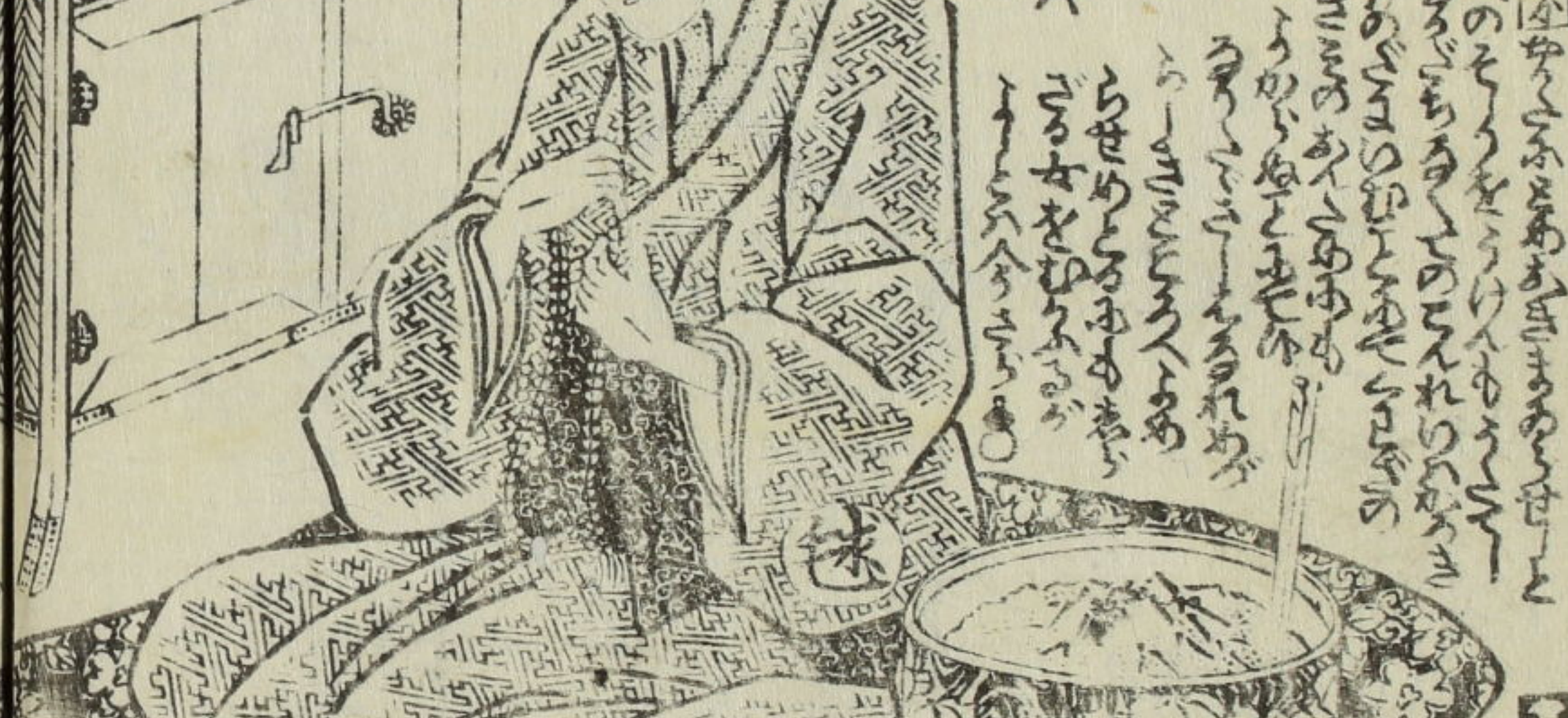
あまは
あまは
あまは
あまは
あまは



あまは
あまは
あまは
あまは
あまは



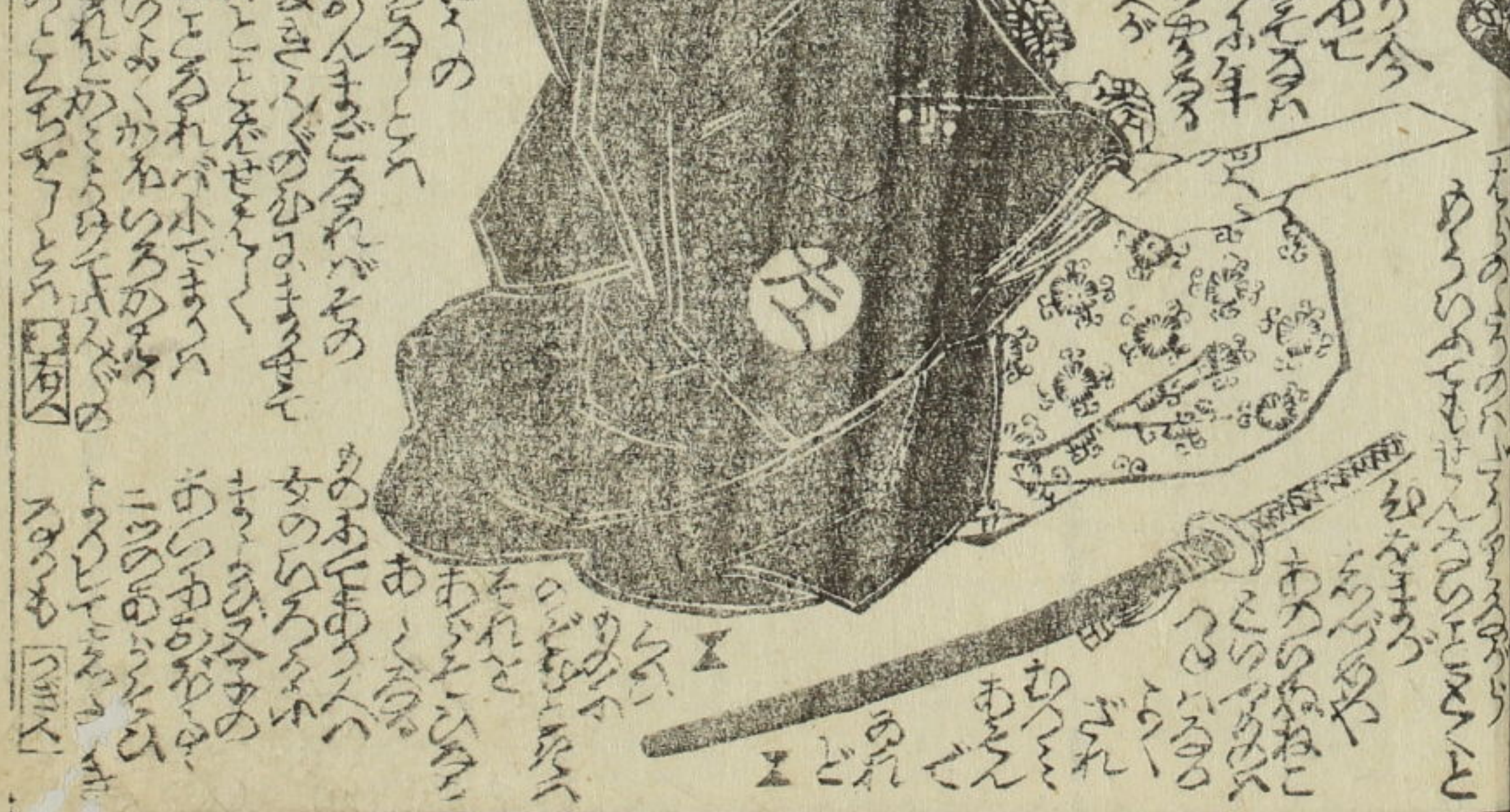
Handwritten text in the top right section of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text in the bottom right section of the right page, continuing the narrative.

Handwritten text in the top left section of the left page, written in a cursive style.

Handwritten text in the middle left section of the left page, positioned above the illustration.



Handwritten text in the bottom left section of the left page, written in a cursive style.

國貞画種彦作

源氏三十一卷の物語を、この挿絵に描かせる。左の女は、源氏に逢ふため、源氏に逢ふと云ふ物語を、この挿絵に描かせる。左の女は、源氏に逢ふため、源氏に逢ふと云ふ物語を、この挿絵に描かせる。

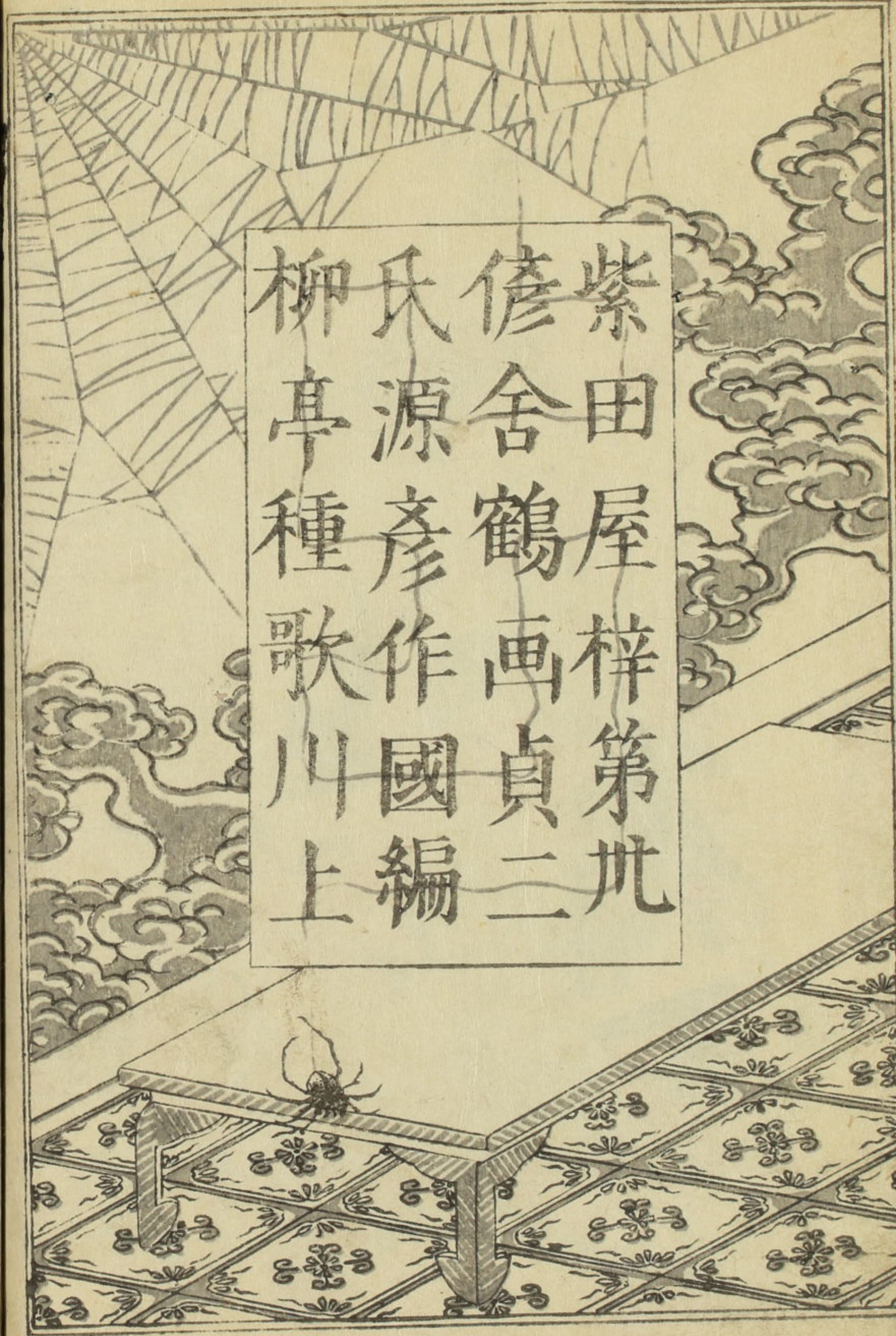
美艶仙女香
 黒油美玄香
 白粉のさき
 両品をさし、白粉相寄り、花本氏

源氏三十一卷の物語を、この挿絵に描かせる。左の女は、源氏に逢ふため、源氏に逢ふと云ふ物語を、この挿絵に描かせる。

三十二編上



紫田屋梓第卅
 僂舍鶴画貞二
 氏源彦作國編
 柳亭種歌川上



僂紫田舎源氏第三十二編

羽二重の緒の最上あれども両衣もあきらめらんぬ（ころめん）襦袢綿ふごま（おと）カ
 縮緬の前垂も身を扱ふあもろく本綿程用ひるまは野良
 帽子の武の兼履もあきらめらんぬ（おと）赤裳ひきと練をらんれは
 万葉時代も長襦袢の練るし事必せり（おと）色も地もひも
 ありあれらんぬ及事あしと知りるる足利徳で五の衣を仕立
 かやう不棄しもさうくして十二重の十二年續きそし女の巻ふ
 至り五節の舞の衣裳ふこまより大原おの田舎換振換（おと）は
 物音の巻の男踏軟と後何かせ玉葛の筑は綿をおこしんて
 見られども原来雅言の借物あれは横堅も採ぬをらんぬ
 書房の是をらんぬ（おと）急ぐもさうく

天保十年庚子孟春
 柳亭種彦誌



大原野の
祭
仁壽元年
辛未二月日
乙卯の日
とて

このあとあつた最ふるに神事を
あつたが
藤氏の后官へつるを
行啓ありとぞ

此のまじりてありてはもほよりいふ
 ぬのこれれこれれはまほをひを
 一のれりてこののりのりもいひま
 ぬまかりまゆのせはれはむらむら
 あんあひてあはれりいりなれまほ
 あんあも—そちゆりてこのうらま
 かこめをたそちちちちそれれれ
 こちのちゆり竹葉と云
 あんあもそちちちのちのちい
 うまそりあちちちちのちのち
 まゆくあひちちちちのちのち
 あんあも—のちのちちち
 むらむらむらむらむらむら
 むらむらむらむらむらむら
 ちちちちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちちちち

右へ
 此のまじりてありてはもほよりいふ
 ぬのこれれこれれはまほをひを
 一のれりてこののりのりもいひま
 ぬまかりまゆのせはれはむらむら
 あんあひてあはれりいりなれまほ
 あんあも—そちゆりてこのうらま
 かこめをたそちちちちそれれれ
 こちのちゆり竹葉と云
 あんあもそちちちのちのちい
 うまそりあちちちちのちのち
 まゆくあひちちちちのちのち
 あんあも—のちのちちち
 むらむらむらむらむらむら
 むらむらむらむらむらむら
 ちちちちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちちちち



左
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一



右
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一

左
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一



左
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一

右
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一

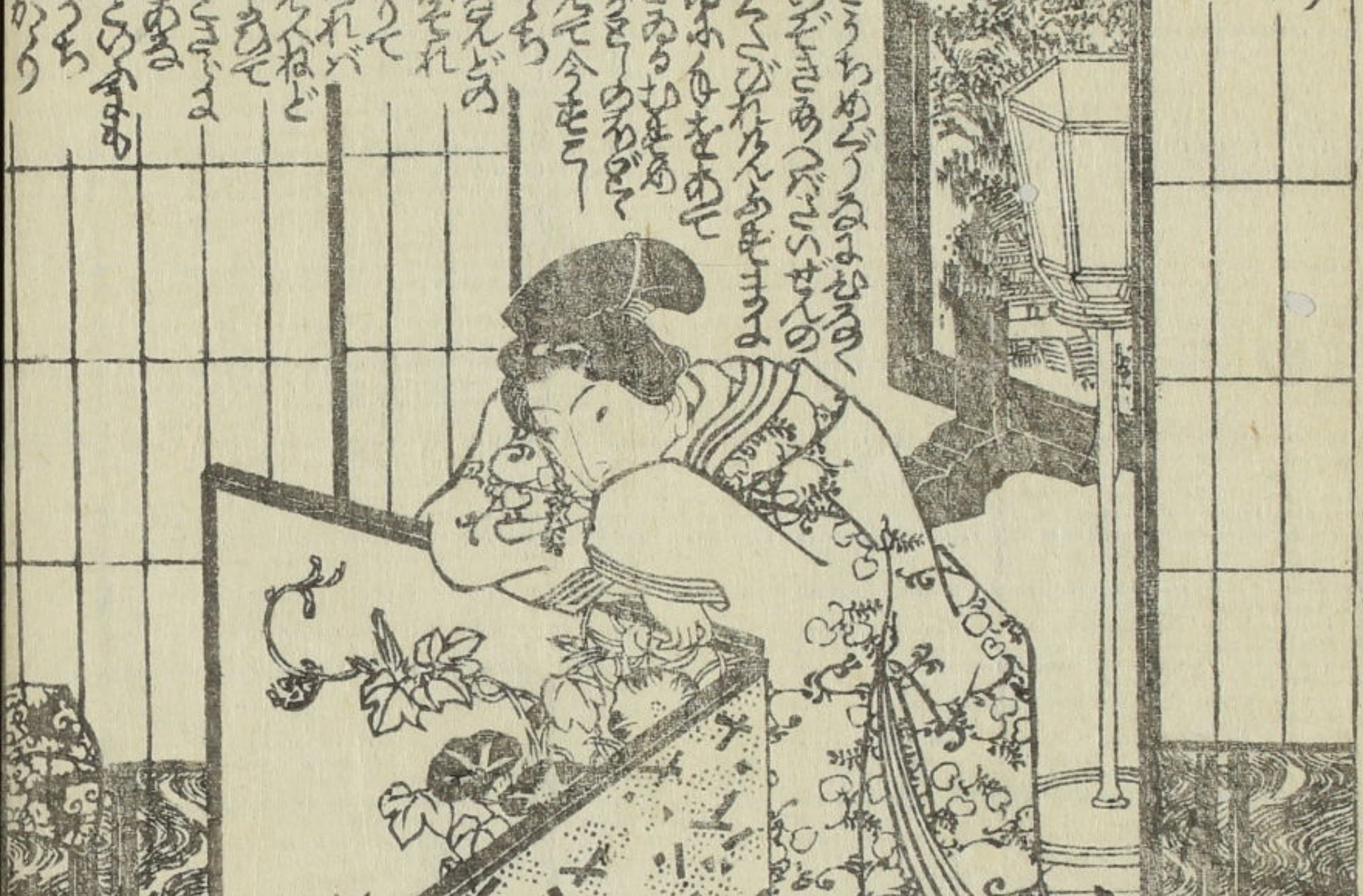
左
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一
源氏物語卷之六十一

Handwritten text at the top of the left page, including the title '第五' (Chapter 5) and the start of a scene description.



Handwritten text at the bottom of the left page, continuing the scene's description.

Handwritten text at the top of the right page, continuing the scene's description.

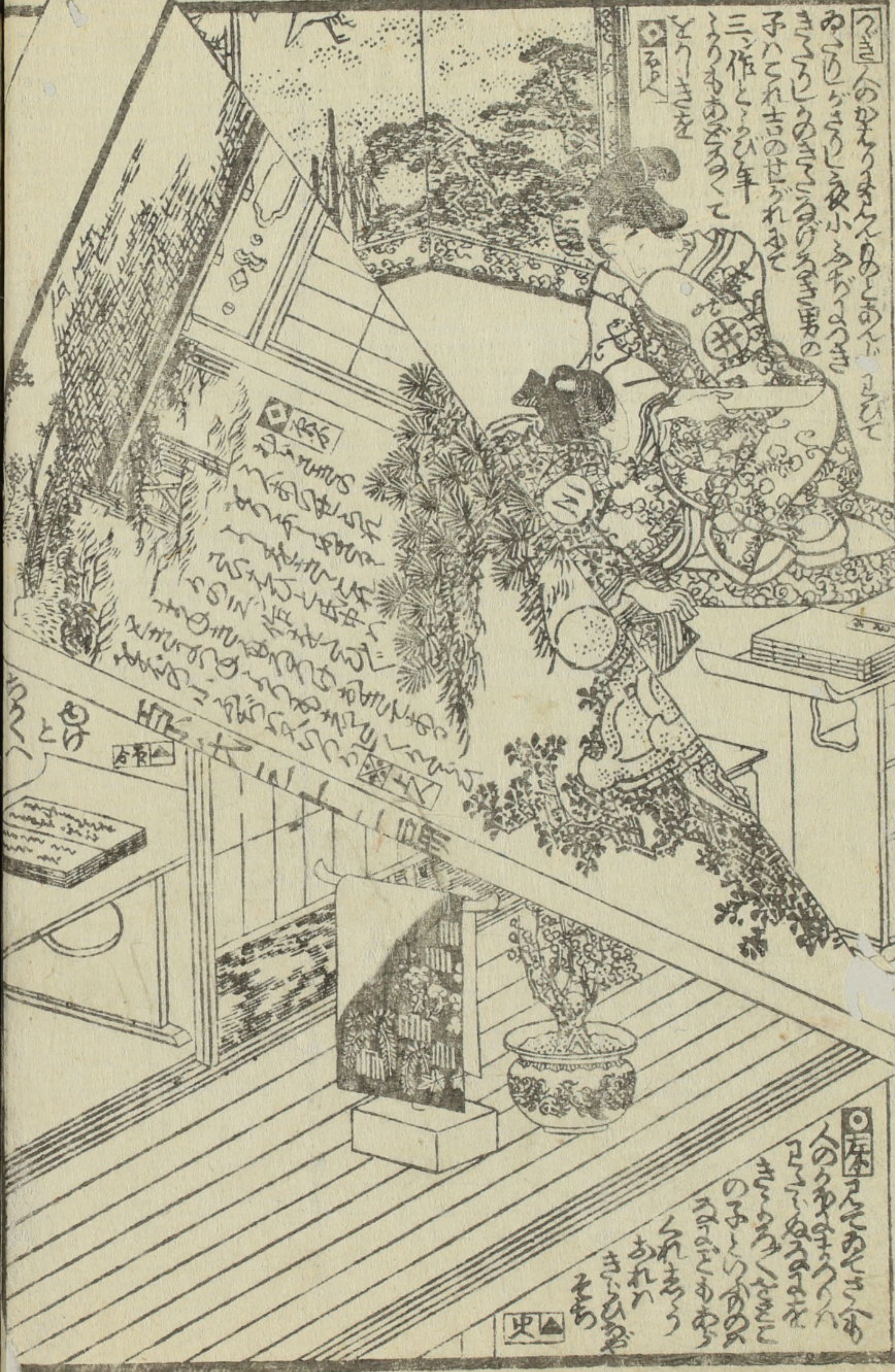


Handwritten text at the bottom of the right page, continuing the scene's description.

第五

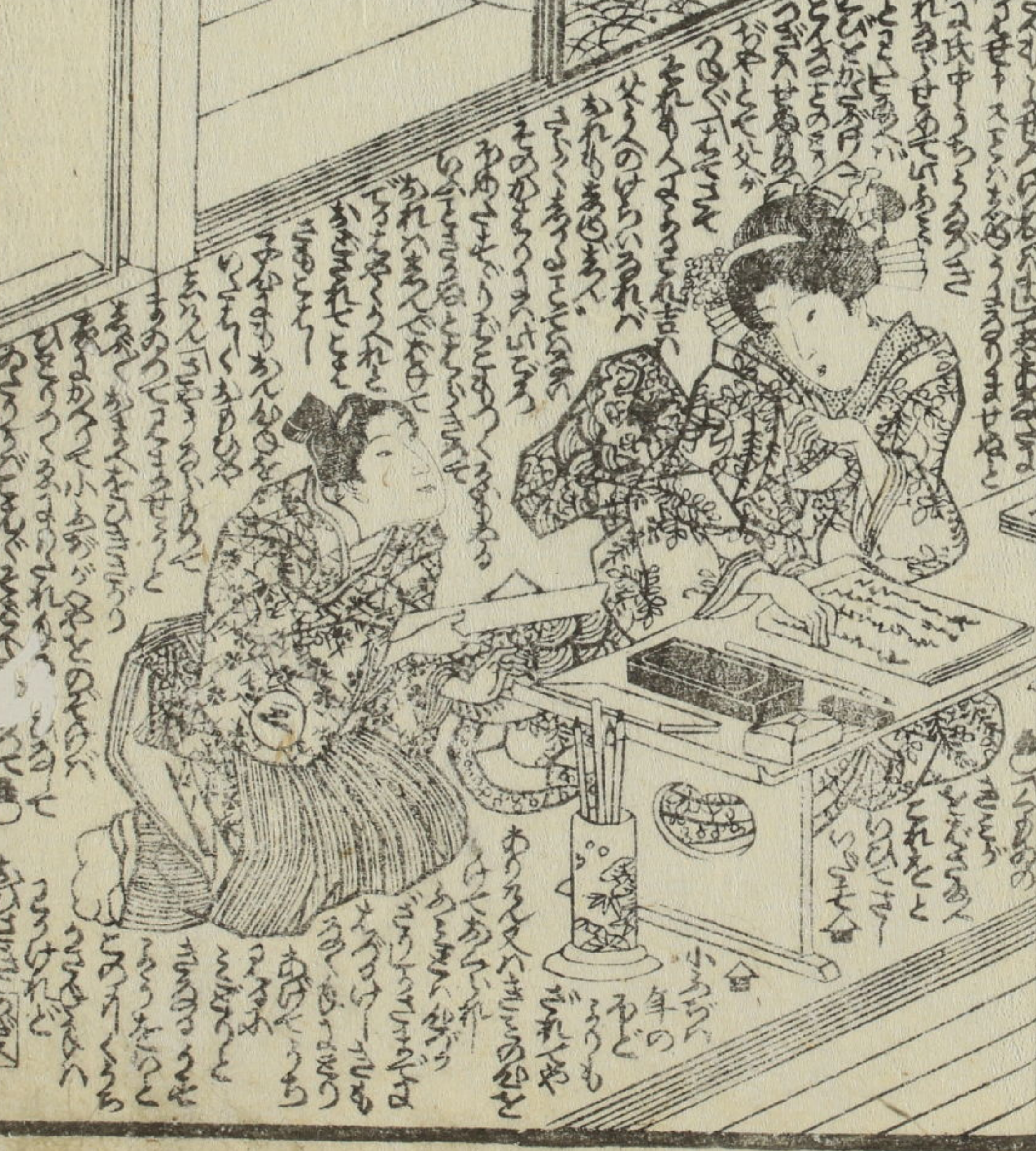
第五

つきのゆかりのきんぎょのこころを
あつちがはらひしむかふかぢりあつち
まじりしむかひのきんぎょのこころ
子にこれ士のせわれやて
三作とてひ年
つきのあつちのこころ
とてひまを



○床にそめてまか
人のあつちのこころ
まじりしむかひの
きんぎょのこころ
とてひまを
あれ
まじりしむかひ
その

つきのゆかりのきんぎょのこころを
あつちがはらひしむかふかぢりあつち
まじりしむかひのきんぎょのこころ
子にこれ士のせわれやて
三作とてひ年
つきのあつちのこころ
とてひまを

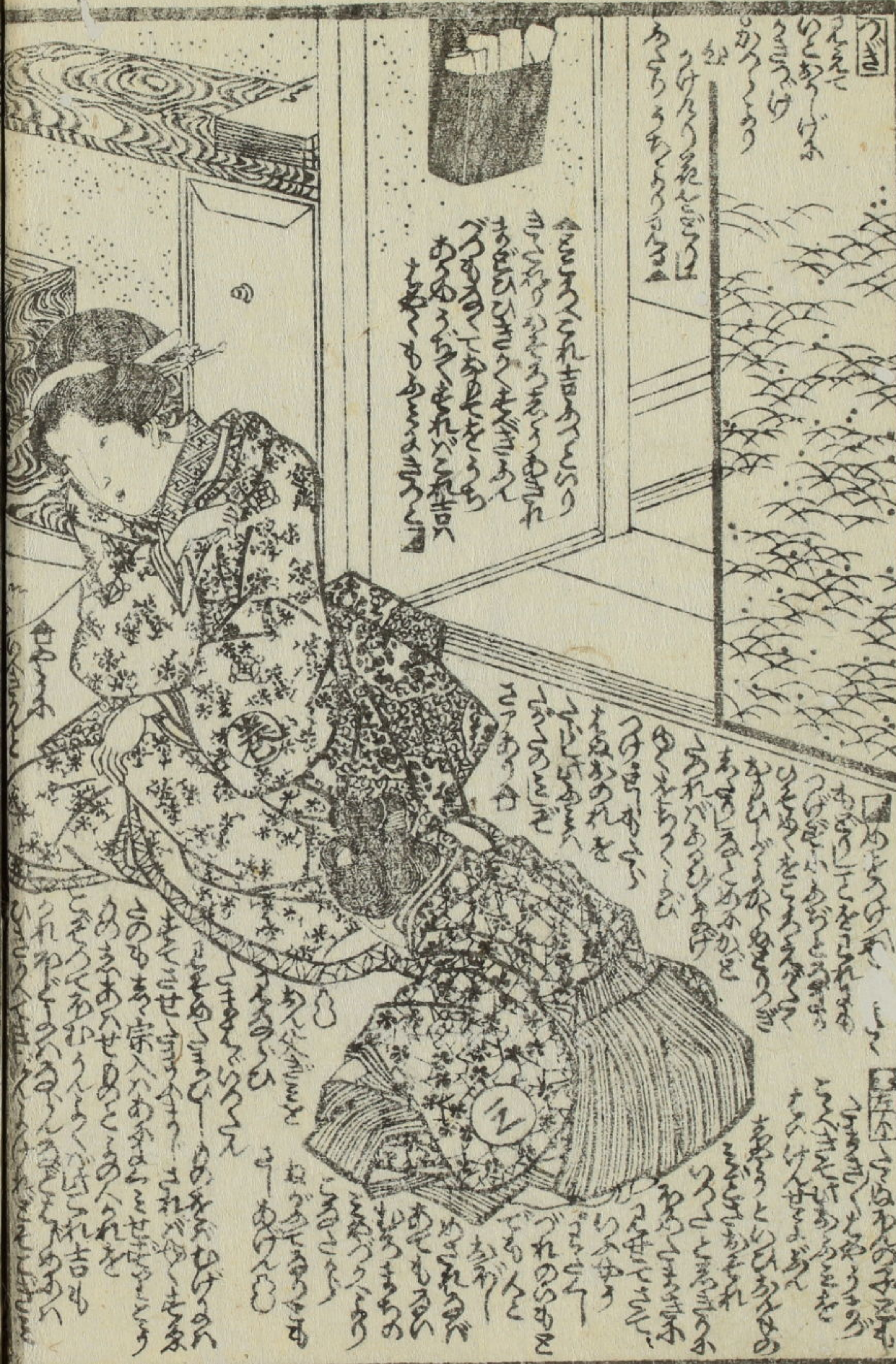


つきのゆかりのきんぎょのこころを
あつちがはらひしむかふかぢりあつち
まじりしむかひのきんぎょのこころ
子にこれ士のせわれやて
三作とてひ年
つきのあつちのこころ
とてひまを

つきのゆかりのきんぎょのこころを
あつちがはらひしむかふかぢりあつち
まじりしむかひのきんぎょのこころ
子にこれ士のせわれやて
三作とてひ年
つきのあつちのこころ
とてひまを

ついで
ひさかた
うきうき
かたうき
あつたうき
あつたうき

あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき



あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき

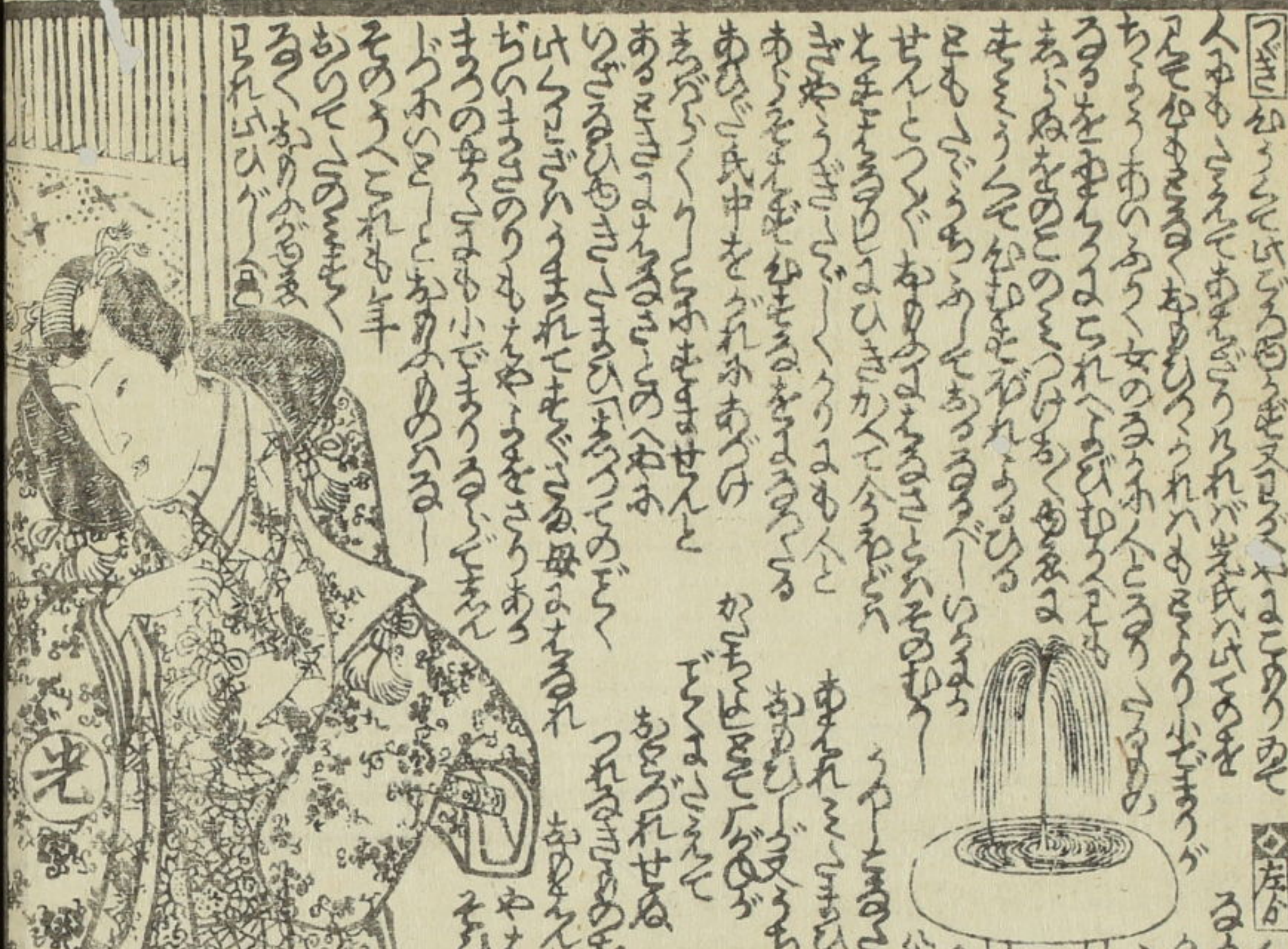
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき



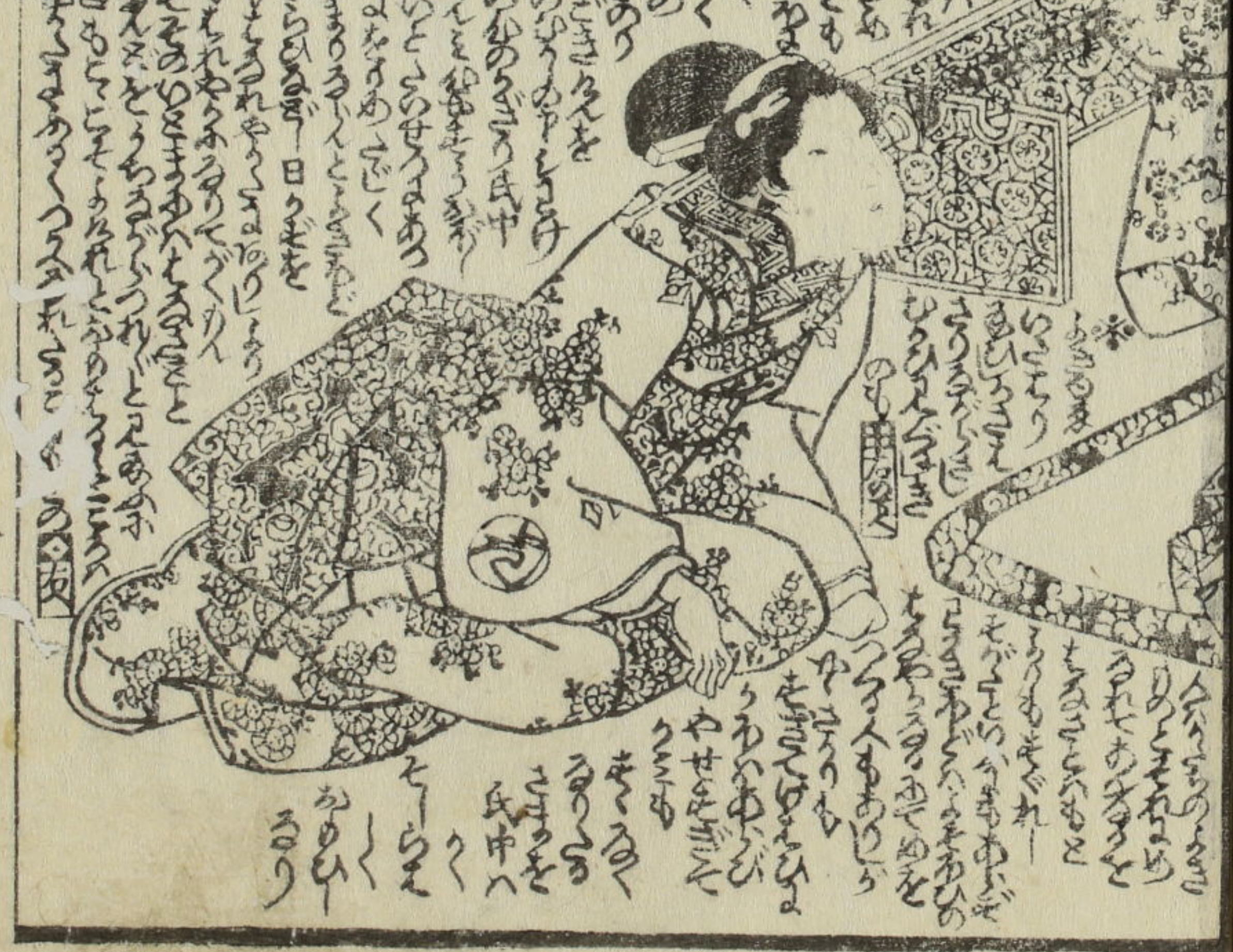
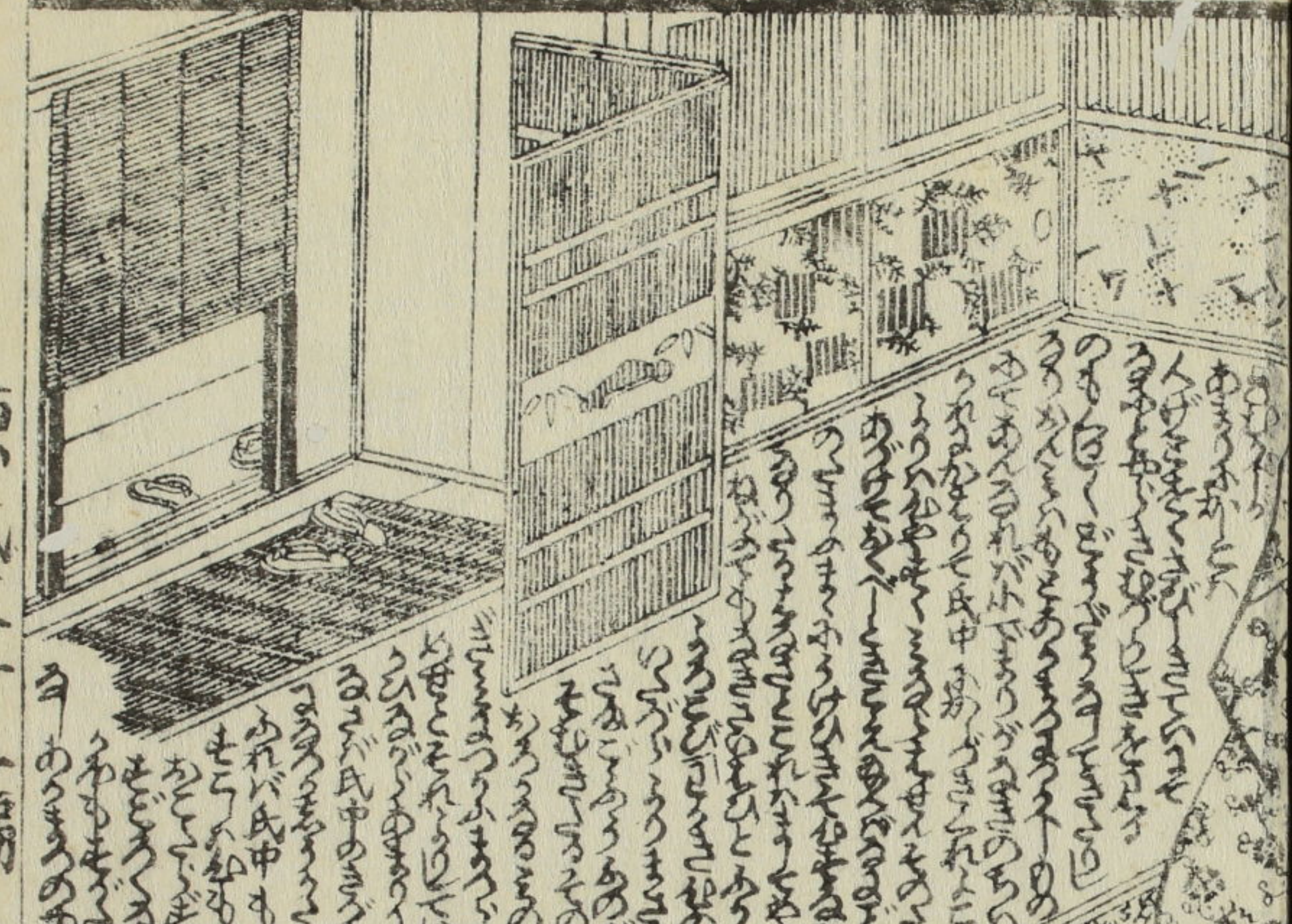
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき

あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき
あつたうき

Handwritten text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration of two women.



Handwritten text in vertical columns, continuing the play script or commentary, surrounding the illustration of a woman and a room.



國貞画種彦作



九月廿四日のちうくま小ま...
この本は、国貞の画種彦作...
九月廿四日のちうくま小ま...
この本は、国貞の画種彦作...
九月廿四日のちうくま小ま...
この本は、国貞の画種彦作...

御免江戸曆開板所

毎年十月下旬に...
御免江戸曆開板所
毎年十月下旬に...

載陽帖

南山禅師書 東海道
四季和文章 石摺木曾海道
道法早筭用道中記 一枚撮

日本名所之繪

唐紙摺一枚 蕙齋歛形 紹真筆

女古狀揃園生竹

大紙本 西品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料

柳亭種彦隨筆 古画入二冊

菅の心ともを

幻佳番記訂證

隨筆

玄同放言 初編二編共三巻

右才三編

三冊 義用の...
右才三編 三冊 義用の...
三冊 義用の...
右才三編 三冊 義用の...

板門衛

右才三編 三冊 義用の...
板門衛 右才三編 三冊 義用の...
右才三編 三冊 義用の...
板門衛 右才三編 三冊 義用の...

天保四

天保四 癸巳 孟春 鶴屋喜右衛門 板門

三敵註本木校輯
芳州集全冊 開闢...
禁蘭集全冊 追...
勸童遊言画手本一名鳥羽繪早中久八業

廣益懷中早割大全 小本...
新形添彩目 植花手引糸 前編出来...
芝居似顔早替古 後編 全二冊五渡亭國貞画

八文字目笑評
三箇津役者評判記 全三冊
即考百籤 全一冊

御免江戸曆開板所 毎年十月下旬...
載陽帖 南山禅師書 東海道道法早算用道中記 一板撮

撰新 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋鐵形紹真筆
撰新 女古狀揃園生竹 半紙本 兩品出来 高井蘭山編撰

撰新 還魂紙料 柳亭種彦隨筆 古画入二冊
田喜菴輯 芳名抄

隨筆 玄同放言 初編二編共...
右才三編三冊 後用の...

幼編... 幼編... 幼編...

三畝并木本校輯
芳州集全冊
開元...
板...
追...
刻...
追...
刻...

蘭集全冊
追...
刻...
追...
刻...

戲童遊言画手本一名鳥羽繪早まひ出来

廣益懷中早割大全
小本...
一冊...
前編...
後編...
先...
後...

新形染彩目
植花...
前...
後...
先...
後...

芝居似顔早替古
後編
全冊五渡亭國貞画
画...
後...

八文字自笑評
藝者評記
全冊
藝者...
評記...
全冊...

即考百籤
全一冊
藝者...
評記...
全冊...

御免江戸曆開板所
每年十月下旬...
後...

載陽帖
南山禪師書
東海道
道法早算用道中記
一枚撮

新撰日本名所之繪
唐紙摺一枚
蕙齋歛形紹真筆

新撰女古狀揃園生竹
大本
西品出来
高井蘭山編撰

新撰還魂紙料
柳亭種彦隨筆
古画入二冊

田喜菴輯
若の心とわを
芭蕉...
編撰

隨筆
玄同放言
初編二編三編
三編三近刻

右才三編三冊
初編二編三編
三編三近刻

三畝在木木校輯
芳艸集全冊
開闢... 追... 刻...

歡童遊言画手本一名鳥羽繪早まらび棠

廣益懷中早割大全
塵劫記... 廣益... 懷中... 早割... 大全...

新形染彩目
植花手引系... 前編出来... 後編嗣刻...

芝居似顔早替古後編全冊五渡其國島画

文字自笑評
三箇津役者評判記
藝品定... 來巳... 即考...

即考百籤
全一冊... 籙箱添...

御免江戸曆開板所
每年十月下旬... 御免... 江戸... 曆... 開... 板... 所...

載陽帖
南山禪師書東海道
四季和文章右摺木曾海道
道法早筭用道中記一枚搦

新撰日本名所之繪
唐紙摺一枚
蕙齋歛形紹真筆

新撰女古狀揃園生竹
大木兩品出来
高井蘭山編撰

還魂紙料
柳亭種彦隨筆
古画入二冊

田喜蕃輯
芳のひとむね
芭蕉... 國分... 園居... 水石... の... 意... と... 撰... 撰...

隨筆玄同放言
初編二編
共三冊

右才三編二冊... 初編二編... 隨筆... 玄同... 放言... 初編... 二編... 共... 三冊...

三畝莊木本校輯
芳州集全冊 開闢八州の土羽時を記す。中首の古くを
板 抄本百卷をまとりて一冊。流石の筆にありしり。中首の古くを
同輯 **紫蘭集全冊** 追 系抄本伊勢道にありしり。中首の古くを
刻 抄本百卷をまとりて一冊。流石の筆にありしり。中首の古くを

歡童遊言画手本 一名 **鳥羽繪早草** 出来
戲筆 一名 **鳥羽繪早草** 出来

廣益 **懷中早割大全** 小本 ありしり。中首の古くを
塵劫記 抄本百卷をまとりて一冊。流石の筆にありしり。中首の古くを

新形深移目 植花手引 前編出来 ありしり。中首の古くを
前北齋為一筆 後編嗣刻 先生傳ふ所を承りて身取あり

芝居 **似顔早藝古** 後編 全一冊 五渡亭國貞画
役者 ありしり。中首の古くを

八文字自笑評
三箇定 **役者評判記** 全
藝品定 ありしり。中首の古くを

即考百籤 全一冊 ありしり。中首の古くを
籤箱添 ありしり。中首の古くを

御免江戸曆開板所 毎年十月下旬に發行す。賣初めの中
御免江戸曆開板所 毎年十月下旬に發行す。賣初めの中

載陽帖 南山禅師書 東海道 道法早筆用道中記 一枚揚
載陽帖 南山禅師書 東海道 道法早筆用道中記 一枚揚

撰新 **日本名所之繪** 唐紙摺一枚 蕙齋歛形紹真筆
撰新 日本名所之繪 唐紙摺一枚 蕙齋歛形紹真筆

撰新 **女古狀揃園生竹** 大木 兩品出来 高井蘭山編撰
撰新 女古狀揃園生竹 大木 兩品出来 高井蘭山編撰

還魂紙料 柳亭種彦隨筆 ありしり。中首の古くを
還魂紙料 柳亭種彦隨筆 ありしり。中首の古くを

由喜菴輯 **芦の心とちを** 芭蕉翁の國居の國水石の島を撰りて此の風系を
由喜菴輯 芦の心とちを 芭蕉翁の國居の國水石の島を撰りて此の風系を

隨筆 **玄同放言** 初編二編 共三冊 ありしり。中首の古くを
隨筆 玄同放言 初編二編 共三冊 ありしり。中首の古くを

右分三編三冊 ありしり。中首の古くを
初編二編 ありしり。中首の古くを

三畝莊木本編輯
芳州集 全冊 板
開闢別名ありて羽陵安田斐後...
蘭集 全冊 追
刻...
刻...
刻...

歡筆 **遊言画手本** 一名 **鳥羽繪早書** 出来

廣益 **懷中早割大全** 小本
塵劫記
前編出来
後編出来

新形染彩目 植花手引糸
前北齋為一筆
後編嗣刻
先生...
...
...

芝居 **似顔早替古** 後編
全冊 五渡亭國貞画
...
...

八文字 **自笑評**
藝品定 **役者評判記** 全
...
...

即考百籤 全一冊
...
...

御免江戸曆開板所 毎年十月下旬
...
...

載陽帖 南山神師書
東海道
道法早弄用道中記 一枚搨

撰新 **日本名所之繪** 唐紙摺一枚
蕙齋歛形 紹真筆

撰新 **女古狀揃園生竹** 大紙本
兩品出来
高井蘭山編撰

還魂紙料 柳亭種彦隨筆
古画入二冊
...

田吉 **昔昔草**
...
...

隨筆 **玄同放言** 初編 二編 三編
...
...

右才三編三冊
...
...

三畝莊木本校輯
芳艸集全冊板
開闢八州の草木を採りて、
同輯
蘭集全冊追
刻、
戲筆遊言画手本一名鳥羽繪早草出衆

廣益懷中早割大全小本
廣益懷中早割大全小本、
戲筆遊言画手本一名鳥羽繪早草出衆

新形深彩目植花手引糸
前編出来、
後編嗣刻、

芝居似顔早稽古後編
全冊五渡亭國貞画

八文字自笑評
三箇津役者評判記
藝品定役者評判記
東屋月一
即考百籤全一冊

即考百籤全一冊
藝品定役者評判記
東屋月一
即考百籤全一冊

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

佛社合四歌仙全冊
東家本木園言通遠樓

仙新堂
轉居在右海の嶽

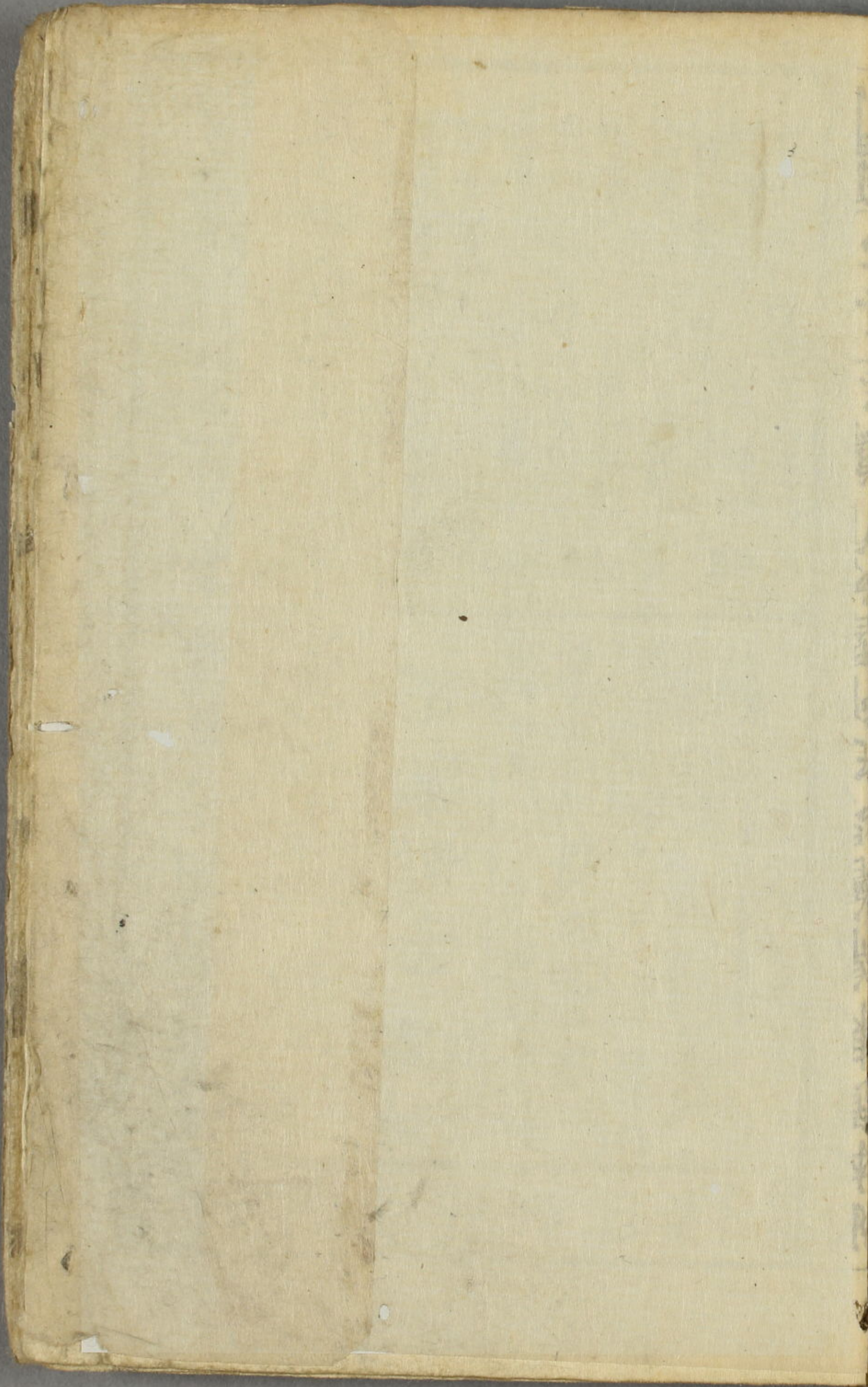
仙新堂
轉居在右海の嶽

仙新堂
轉居在右海の嶽

仙新堂
轉居在右海の嶽

仙新堂
轉居在右海の嶽

仙新堂
轉居在右海の嶽





東都本園宗匠校輯

純信芳州集 全冊

能信叢蘭集 全二冊

開板追刺

漢八段の... 純信の... 芳州の... 能信の... 叢蘭の... 全二冊

能信今人附合集 全四冊

新開板

元天保元年... 能信の... 今人の... 附合集... 全四冊

能信今四歌仙全冊

秘室本木相雨小園四天人の... 能信の... 今四歌仙... 全冊

田舎源氏友相抄如よひ 上仕立

田舎源氏友相抄如よひ... 上仕立... 秘室本木相雨小園四天人の...

能信同人集 貞秀画圖

貞秀画圖

所子遊巻入

種彦聞書

小繪

貞秀画圖

火焚... 全冊... 浦島爺... 全冊

江戸御曆開板所

鶴屋喜右衛門

天保十年己亥初春新彫

倭紫田舎源氏

尚書廿八編分三十三編を用板お製し流し交誼を絶す存心

柳亭種彦作
歌川貞画

楠一代記 五冊

鳥有山人作
歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋

緑真仙橋作
全六冊
五雲亭貞秀画

百人一首雅講釋

山東京山作
八冊
歌川國虎画

櫻風呂花半開

白雲洞主人作
全四冊
五雲亭貞秀画

清盛一代記 五冊

鳥有山人作
歌川國芳画

藻塩坪須磨書替

松下樓麓谷作
全四冊
五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡
視藥霞引

各再板

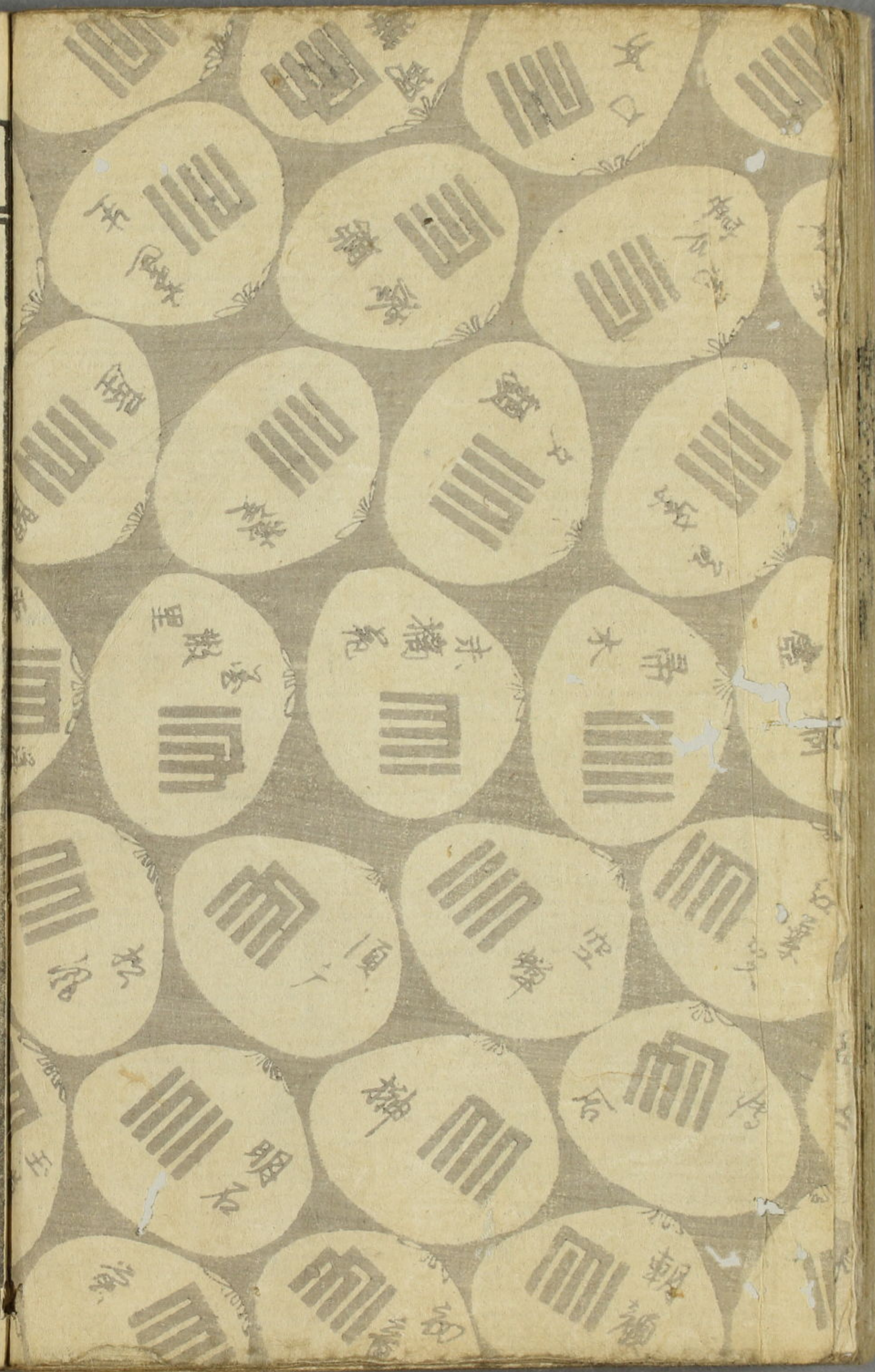
曲亭馬琴作
歌川國芳画

美艶仙女香 四十八銅
黒油美玄香 三百西側
坂本氏製



書物 錦繪
問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門



天保八年丁酉初春新彫

傍紫田舎源氏

八年廿二編より廿六編まで用板おかしき所は宛々を括弧書きに

柳亭種彦作

歌川國貞画

一筋道雪眺望

歌川國芳画

飛翼連理窓の櫻樹

歌川國芳画

森羅万象心意氣

歌川國芳画

歌川國貞画

琴声女房形氣

歌川國貞画

茶室のいろは

歌川國貞画

美艶仙女香
油美香
四十八銅
本氏製



問屋

江戸通油町

鶴屋喜右衛門



天保十年己亥初春新彫

傍紫田舎源氏

高来廿八編々三十三巻を兩板お替りて此巻迄を絶て存存

柳亭種彦作
歌川貞画

楠一代記 五冊

鳥有山人作
歌川國芳画

佐野渡怨歌懸橋

緑亭仙橋作
全六冊
五雲亭貞秀画

百人一首雅講釋

山東京山作
八冊
歌川國虎画

櫻風呂花半開

白雲洞主人作
全四冊
五雲亭貞秀画

清盛一代記 五冊

鳥有山人作
歌川國芳画

藻塩埵須磨書替

松下樓麓谷作
全四冊
五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡
視藥霞引札

各再板

曲亭馬琴作
歌川國芳画

美艷仙女香 四十八銅
黒油美玄香 三冊
坂本氏製



書物錦繪
團扇地紙 問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門





天保八年丁酉初春新彫

倭紫田舎源氏

八年丁酉編より廿六編まで用板おかしき所は宛先を掲奉る

柳亭種彦作

歌川國貞画

一筋道雪眺望

歌川國芳画

飛翼連理意の櫻樹

歌川國芳画

森羅万象心意氣

歌川國芳画

歌川國貞画

琴声女房形氣

歌川國貞画

種彦皮書

茶名のいろは二冊

治浦島翁二冊

義艶仙女香
黒油美玄香
四十八銅
氏製



書物錦繪
團扇地紙
問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門

